



議会だより たてしな

第130号

平成25年4月17日



たてしな保育園開園（平成25年 4月3日）

発行／長野県立科町議会 編集／議会だより編集委員会

〒384-2305 長野県北佐久郡立科町芦田2532番地 TEL(0267)56-2311 有線2311 FAX(0267)56-2310

E-mail gikai@town.tateshina.nagano.jp URL <http://www.town.tateshina.nagano.jp>

**予算特別委員会を設置し当初予算を審査
国保税 15.0%引き上げを全会一致で可決**

平成25年第1回定例会は、3月4日から15日まで12日間の会期で開かれた。

平成25年度一般会計予算をはじめ条例等36議案が提出され原案のとおり可決した。

また議員・委員会発議により4件が提出され可決した。

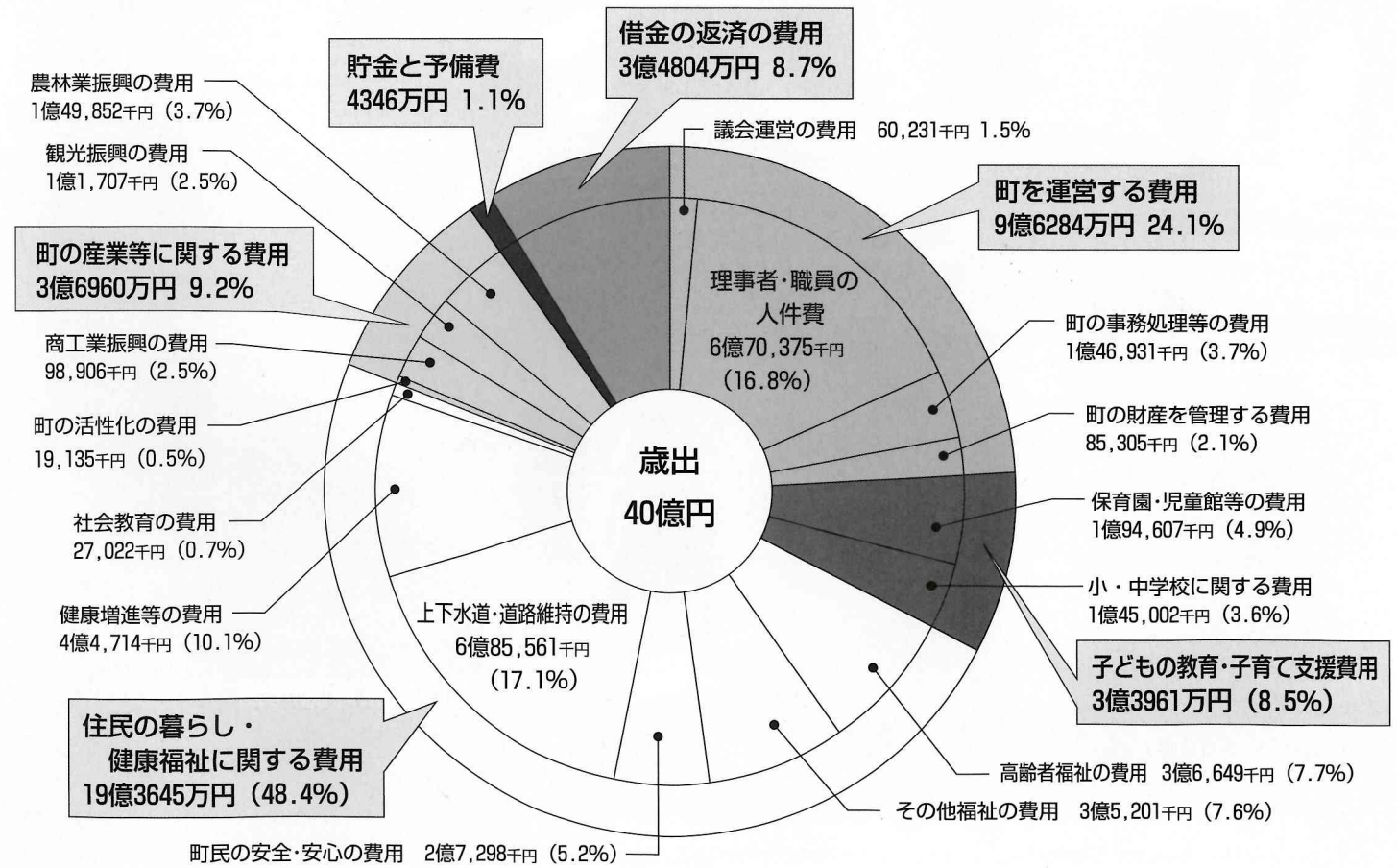
今定例会では、新年度の政策方針等情報の共有と、本会議とは違ったきめ細かな当初予算審査のため、議長を除く全議員による「予算特別委員会」を設置した。

平成25年度会計別当初予算 (単位:万円)

会 計 名	25年度予算	前 年 比
一般会計	40億	2000
国民健康保険特別会計	8億4000	700
後期高齢者医療特別会計	6421	△ 29
介護保険特別会計	8億5500	7450
ハートフルケアたてしな事業会計	4716	△ 4億8083
住宅改修資金貸付事業会計	272	△ 68
下水道事業特別会計	4億 906	△ 4024
白樺高原下水道事業特別会計	5331	1236
水道事業会計	4億 104	△ 2004
索道事業特別会計	5億3724	472
予 算 総 額	72億 977	△ 2億4352

※水道・索道は収益的+資本的支出の予算。

平成25年度一般会計歳出予算の概要



平成24年度
補正予算

一般会計他8会計の補正を行った。今回は、一般会計とも実績に伴う補正が主であり、一般会計では、財政調整基金他1億6百万円の追加積み立てが行われた。

住宅改修資金特別会計では、464万円、水道事業特別会計では1億532万円を、国より5.5%以上で借入した借金の繰り上げ償還が認められたため今回の補正で対応した。ハートフルケアたてしな事業会計では、4月1日より社会福祉法人移行に伴い、町職員が退職するためこれに係る費用が補正された。

一般会計では、緊急時の防災情報が各家庭の有線放送（夢科地区では告知放送）設備に自動起動により伝達する整備事業が国より認可され、事業費1千236万円（全額国補助）の追加提案があり可決した。

新しい条例

◇新型インフルエンザ等 対策本部条例

条例の改正

◇町道の構造の技術的基準等に関する条例
地域主権一括法により
条例で定めた。

◇特別職の職員で常勤の者等の給与に関する条例
引き続き町長、副町長、
教育長の給料月額を26年
3月31日まで減額する。

◆国民健康保険税条例

医療費等の増加により現在の国保税率を35%引き上げないと赤字経営になる現状の中、激変緩和措置として基金の活用により今回15%の引き上げとした。

新年度予算主なもの（新規事業等）

○一般会計
歳入

- ・町税 8億 656万円 (前年比 408万円減)
- ・地方交付税 16億4000万円 (〃 1億2000万円減)
- ・財政調整基金繰入 (貯金取崩) 3億円 (前年比 皆増)

歲出

- | | |
|--|----------|
| ※・地理空間情報活用推進事業 | 5881万円 |
| ・たてしな保育園運営費 | 1億4048万円 |
| ・川西赤十字病院運営補助 | 1920万円 |
| ・佐久病院佐久医療センター建設負担金 | 6689万円 |
| ・不妊治療助成事業 | 60万円 |
| ・未熟児養育医療給付事業 | 30万円 |
| ・ダンボールコンポストによる生ゴミ減量化事業 | 43万円 |
| ・ワイン用ぶどう栽培事業補助 | 680万円 |
| ・耕作放棄地再生利用緊急対策事業補助金
(そば栽培推進のためコンバイン等立科町再生協議会への購入補助) | 420万円 |
| ・ゴンドラリフト山麓駅公衆トイレ整備 | 1644万円 |
| ・社会資本整備総合交付金事業
(町道平林真瀬線改良工事L=150m・中原大深山線道路改良工事L=250m) | 1億1525万円 |
| ・立科教育推進事業講師3名配置 | 1278万円 |
| ・学力向上つまづきテストの導入 | 53万円 |

○国民健康保険事業特別会計

- ・ 保険税引き上げ15% 2000万円程度（引き上げ増）

○水道事業会計

- | | |
|----------------|--------|
| ・弁天神水源フェンス設置工事 | 1212万円 |
|----------------|--------|

○索道事業特別会計

- ・キッズウェイ設置（2in1コアハウス側） 1050万円

同意

◇子育て支援住宅設置及び管理条例
入居決定から入居までの期限を30日以内と定めた。

◇保育所条例

保育所統合により
「千草・若草・三葉」を
「たてしな保育園」
とした。

議員提案

◇議会委員会条例改正
「ハートフルケアたて

しな」の社会福祉法人化に伴い、観光課を社会文

しな」の社会福祉法人化に伴い、観光課を社会文
教常任委員会の所管とし、
名称を「社会文教観光常
任委員会」とした。

ク・パラリンピック競技

大会東京招致に関する決議
立科町議会として東京招致を応援する決議を可

決し、東京都知事にエールを送った。

※ 地理空間情報活用推進事業とは
コンピューターを使用し、位置情報やこれに関連する道路をはじめ下水道管その他の情報を一体的に管理するための事業です。

◇反対◇

山浦 妙子
一般会計について、生活実態や生活環境が改善され、町民の部落差別に対する意識も改善し、国の同和対策事業特別措置法が平成14年3月に失効した。にもかかわらず当町は今年度予算に同和対策事業費と部落解放同盟協議会に186万8千円の補助、負担金を計上。この額は他の諸団体への額と比べてもケタ違いの金額である。今こそ、行政がつくり出してしまった垣根を完全に取払って町の事業のあり方を根本的に正常化させるべき。よって見直しを求めたい。

議員発議の2020年夏期オリンピック東京招致に関する決議について、世界中の人々に感動と希望を与えるオリンピック開催については反対するものではない。東日本大震災の復興に今こそ、被災者自治体が総力をあげて取り組むべきとき。4千

億円の準備基金を活用し安心安全のための防災・福祉の東京作りに全力を尽くし、オリンピックの招致はこの事業が進んだ中で国民・都民の声が大きく上ればその時に検討すれば良い。

◇賛成◇

宮下 典幸
一般会計は、町長重点目標としての予算編成となっている。

大型の支出として佐久病院佐久医療センターの財政支援、川西赤十字病院運営費補助や社会資本整備による道路改良、地域ブランド向上、そしてソフト事業では不妊治療助成金など、どれも地域連携をふまえた医療・生活圏を重視したもので町発展に向けた施策・予算であり理解するものである。

しかし国保税条例の改正は毎年3%の医療費が伸び続け、今回ひとり当り1万円、平均15%引き上げるものである。加入者の理解を得るために、国保の現状や健康に関心をもちた町民健康イベント

トなどを開催し啓発活動など積極的な推進と町民ニーズにそって費用対効果に注視した予算執行を要望し賛成討論とする。

◇賛成◇

小宮山正儀
定例会に提案された、全議案について賛成の立場で討論する。

町道の構造の技術的基準等に関する条例は、今までの道路構造令によつたものを地域主権一括法により条例化するものである。

子育て支援住宅設置及び管理条例の改正は、入居通知から30日以内に入居しなければならぬと定め、学校関係等にも配慮されていた。

平成24年度一般会計補正予算ほか特別・企業会計は事業実績にもとづくものであり、住宅、水道の各予算においては、国の公的資金補償金免除繰上償還により高率の借入金繰上するのための補正がなされ、健全化への対応として評価する。

「配合飼料の価格高騰

対策」及び「中小企業の再生・活性化策の充実強化」を求める陳情は、現在の経済情勢をかんがみると、畜産農家の実情は基金制度はあるが飼料価格は高止まりのため苦慮している。また中小企業の皆様の実情をそれぞれに、政府への陳情により伝え、国また県から市町村へ強力な対策が講じられることが必要であると考える。



陳 情 の 審 査 結 果

受理番号	受理年月日	提出者	住所	件 名	付託委員会	結 論
陳情1号	平成24年12月1日	立科町老人クラブ連合会 会長 小池 守一	立科町	安心して介護が受けられる介護サービスの充実を願う陳情	社会文教 常任委員会	趣旨採択
陳情2号	平成25年2月13日	明日の立科町をきずく会 代表 中島 稲夫	立科町	配合飼料の価格高騰対策を求める意見書(案)の採択を求める陳情書	総務経済 常任委員会	採 択 賛成多数
陳情3号	平成25年2月13日	明日の立科町をきずく会 代表 中島 稲夫	立科町	中小企業の再生・活性化策の充実・強化を求める意見書(案)の採択を求める陳情書	総務経済 常任委員会	趣旨採択 賛成多数

※結論は、委員長報告に対してのもの。
※採択された陳情は、国に対してそれぞれ意見書を提出。

予 算 特 別 委 員 会

委員長 土 屋 春 江

立科町議会ではじめての「予算特別委員会」を設置した。
新年度の政策課題など情報の共有化を図るため
全員により3月12日・13日の2日間の日程で審査を行なった。

総 務 課

◎全会計職員等の person 費
人件費の状況は、国は、復興財源として2年間7.8%の削減措置をとっている。これと比べると国の水準より3%上回っているが削減前と比べると4.9%下回っている。

◎主な歳出
財政調整基金3億円の充当先は、佐久医療センター・新斎場建設負担金等大型事業に充てる。

◎地方税滞納整理機構
整理機構移管の基準と国保税の移管は、専門部署に移管するケースが増えている。数字的な基準はない。

◎防災費の防災マップ
策定する防災マップ

の配布は、全戸配布し啓発に努める。

町づくり推進課

◎長期振興計画の策定
委員は公募か。また委員数は、公募する。委員は15名程度。

◎地域ブランド構築事業の振興公社への520万円の内容は、(公社)の事業計画・予算計画の資料について別途提出を求める。
地産地消、インターネット販売、ふるさと宅配便等の事業人件費に充てる。

◎太陽光発電施設設置補助事業の補助金の総額が300万円に。
24年度は予算額を超え、補助金の対象から離れた方の対応は、25年度の申請受付は、実績は24件(補助金総額200万円)もれた方は25年度申請。初日受付で、予算額を上回った場合は「くじ引き」とする。

◎有畜鳥獣捕獲
委託料120万円の内訳は、猟友会へ40万円と鹿の捕獲1頭につき1万円の80頭分である。

(注) 国の採択基準に合致していること。申請受理前の工事は認めない)

◎温泉館「権現の湯」の運営
使用料の内訳は、食堂使用料900万円、その他使用料は800万円、入館料は6千190万円程です。

◎「たてしなスマイル交通」
料金の見直し議論と利用者の状況は、議論は特にない。利用者はわずかに増えている。

◎有害鳥獣捕獲
委託料120万円の内訳は、猟友会へ40万円と鹿の捕獲1頭につき1万円の80頭分である。

◎立科ブランド確立事業
料理コンテストの商品化後の販路と著作権は、24年度の入賞作品3点を考え、販路は「たてしな屋」「農ん喜村」等を予定する。著作権は「町」にある。

◎戦略的農業栽培補助事業

◎戦物及び加工品は何を予定しているか。
戦略はそば刈り取り補助。加工品は試験事業である。

◎立科ブランド確立事業
料理コンテストの商品化後の販路と著作権は、24年度の入賞作品3点を考え、販路は「たてしな屋」「農ん喜村」等を予定する。著作権は「町」にある。

◎「陣内森林公園」整備
22年度にマスタープランを作成し、有効利用を図るとしたが、予算は前年のままだが、作成したが、棚上げ状態である。

◎林業振興と観光連携
天皇・皇后ご成婚の看板設置(工事請負費118万円)は、観光に寄与するの。白樺リゾートからの提案。八子ヶ峰方面からはそのように見える

◎白樺高原の観光施設管理経費
御泉水自然園のシャクナゲ植栽は、1500本植栽予定。

ので予算化した。

◎特別会計・索道事業
経営改善検討委員会委員報酬24年度答申であるが、報酬がまた予算計上されたのは、索道以外の白樺高原等観光全般についての検討を新年度も行なっていくためである。

◎白樺高原の観光施設管理経費
御泉水自然園のシャクナゲ植栽は、1500本植栽予定。

◎特別会計・索道事業
経営改善検討委員会委員報酬24年度答申であるが、報酬がまた予算計上されたのは、索道以外の白樺高原等観光全般についての検討を新年度も行なっていくためである。

◎白樺リゾートからの提案
八子ヶ峰方面からはそのように見える



建設課

◎道路の維持管理と整備工事経費

問 アダプト制度町道等維持管理協力補助金は何地区が協定されているか。

答 33地区と2団体と協定している。

問 国の補助金を活用する事業は。

答 町道平林真蒲線と中原大深山線の道路改良工事等である。

◎住宅・建築物耐震改修等事業経費

問 耐震診断は5戸であるが、継続実施していくのか。

教育委員会

答 県が28年までの計画であるので、県と同じ計画としたい。

◎特別会計・下水道事業未接続者からの収入金の計上は。

答 3年経過した未接続者は、均等割3千円の月額使用料として計上している。

問 使用料の不足分を一一般会計より補てんをしているが、この考え方は。

答 処理場数も多く経費がかかる。今後10年間で統合計画をたて、経費の節減を図る。

◎民生費・子育て支援事業経費

問 支援会議の内容は。

答 委員15人で構成。子育て支援計画を立てる予定である。

◎民生費・保育所事業経費

問 臨時職員の配置は。

答 正職・臨職を含めて基準にあった配置をし、障がい者の加配もしていく。

問 人件費が伸びている統合前と統合後の構成の違いは。

答 24年度途中で未満児対応で増額補正をした。これを考慮すると大きな増減はない。

問 立科教育は、算数・数学を強調しているが保育所もこの体制でできるのか。

教育長 保育所は小学校にしっかりとつながるものにしていく。

◎教育費・教育振興経費

問 不登校児童日常生活の学習が足りないと思うが。

教育長 担任が訪問している。登校時は職員を確保している。

問 立科教育推進事業講師3人の配置は。

教育長 学力分析で算数、数学が小中高の接続性が重要と検証した。互いの教師間の指導内容等の研究が大事。計画では週3回の小中高の交流をおこなう。

問 夢科高校の通学バス補助の内容は。

答 小諸・田中方面の75人を算定根拠とした。

町民課

◎居宅介護支援事業経費

問 ゆつたり入浴事業は。

答 入浴困難な居宅者宅を訪問し、入浴サービスをする。個人負担8

00円、町負担9200円で実施する。25年度は40件予算化した。

問 家庭介護者慰労金の対象者は。

答 要介護3は31人、4は24人、5は14人。

◎母子保健事業経費

問 巡回相談はどこに委託するの。

答 言語聴覚士と心理相談の資格者の個人に委託する。

総務経済常任委員会

所管 総務課・町づくり推進課・農林課・建設課
観光課・会計室・議会事務局

本委員会は、3月11日に開催した。質疑の主な内容は次のとおり。

質疑Q&A

◎子育て支援住宅設置及び管理条例の改正

Q 入居可能日から30日以内に入居としたが、町営住宅の方では14日以内としている。この違いは。

A 子育ての中で、学校の切り替え等を考慮した。

◎一般会計補正予算

Q 国は緊急経済対策の補正を行ったが町

の活用は。

A 補正メニューの細部の検討を行ったが該当するものがなかった。

Q がんばる応援事業は、毎年未消化であるが要望がないということか。

A 広報等を通じ各地区の実績や内容をお知らせしているが、この状況だ。

Q 女神湖住宅の調査が皆減額された。建設予定はいつか。

A 更に検討する必要がある。所管とすれば必要な住宅とされている。しっかりと住民の皆さんとも話し合いを進める。

Q 消防団の退職金は、分団長をやめ、普通の団員となった場合の取り扱いは。

A 消防団員を退職した時、発生する。

◎索道事業特別会計補正予算

Q 24年度の収入実績はどの位の予定でいるか。

A 笹子トンネルの影響が大変厳しく響いた。現状では昨年を下回る状況だ。

社会文教常任委員会

所管 町民課・教育委員会
ハートフルケアたてしな

本委員会は、3月11日に開催した。質疑の主な内容は次のとおり。

質疑Q&A

◎一般会計補正予算

Q 老人福祉センターの緊急呼出装置設置工事は。

A 風呂に設置し入浴中の事故に対応するも

の。

Q 老人のインフルエンザ予防接種の割合と啓発は。

A 予算で1千650人の対象に対し1千3

副園

田中 榎本 三真 弓江
榎本 沢 寿美 幸雄
宮下 典幸
箕輪 妙子
山浦 妙子

人・農地プランについて



田中三江

問 遊休荒廃地や耕作放棄地増大を防ぐ目的の新規就農者が、年150万円最大5年間で750万円の支援が受けられる人・農地プラン。アンケート結果は。

町長 田畑の農地を所有する全農家、1590戸を対象に行った。5年後の状況

①現状維持922戸
②経営規模縮小194戸

③経営規模拡大39戸
10年後の状況
①現状維持817戸
②経営規模縮小224戸
③経営規模拡大32戸。

問 大規模農家を目指す大型機械が必要になる。使い勝手の良い農業機械バンクのような事業創設は。

町長 研究してみたいが、むずかしい。

結 人・農地プランが効果的・効率的に実践され、農業者がメリットを十分享受できるよう周知をしっかりと行ってほしい。

立科町の歴史・文化財について

問 歴史民俗資料館は開館し、資料はふるさと交流館などに保管されているが、資料館の開館はいつか。

町長 収蔵品は町民皆さんからの寄贈や預かり品。当面はふるさと交流館で、歴史・文化の紹介をしていく。

問 塩沢・宇山・八丁地せぎの開発や国有林・ワミ山など立科町を築いた人々、保科百助氏など歴史を後世に伝えていく事が大切。特に「立科教育」を進める小・中学校での指導は。

塩沢・宇山・八丁地せぎの開発や国有林・ワミ山など立科町を築いた人々、保科百助氏など歴史を後世に伝えていく事が大切。特に「立科教育」を進める小・中学校での指導は。



教育長 郷土教育、先駆者の業績等機会あるごとに子供たちに伝えていきたい。

問 先人の胸像・肖像画はどうか、または佐久市のような「佐久の先人」広報の別冊の発行を願う。

町長 保科先生の肖像画はあるがそれ以外の方はまだ機運、盛り上がりになっていない。

結 早急にふるさと交流館に歴史資料を展示して頂き、広く町内外の皆さんに啓発、伝承してほしい。



箕輪修二

問 23年度、本年度と町は商工会に一千万円の補助金を出し、プレミアム付商品券を発行した。一万円で一万一千円の買物ができるというものだが今年度は二日間とアツと言った。限られた財源の中で一千万円の補助金は予算規模から多額の投資であり、中小企業振興に

町長 本年度は消費の拡充、商工振興の推進を目指し、商工会に委託したものだ。大型店以外の消費が多く、リフォーム、太陽光発電施設、車や生活物資の購入等で町内商工業者支援と住民の生活環境の改善

問 農地法の農地権利取得の「下限面積」を全国最少の一町（30坪・100㎡）に島根県の雲南市が設定した。移

住（人口増）と遊休農地（荒廃地）の解消をセツトで進めるのが狙いだ。原則50坪であるものを20坪・30坪に見直し、さらに空家付遊休農地を一筆

農地法の下限面積について



向上が図られた。しかし早期完売で町民や希望者が購入できない、一人での多額購入等、改善点もある。多くの意見を聞き、実施の場合は反省を踏まえ効果が大きい事業とした。

町長 一町は画期的でかなりの効果が有ると思うが、農地法の事務は農業委員会が審議される。会の意見を伺いたい。



農業委員会との農業振興懇談

判断で下限面積の設定をすることになった。3月の定例会で下限面積、別段面積を支援が生じないか、乱開発の恐れはないか等、十分な検討をする。県農政部、県農業会議等の関係機関と連携を取り、前向きに検討する。

プレミアム付商品券について

問 商工業に関わる人口等は。県発表資料によると、商業は平成14年度350人（97事業所）平成19年度417人（92事業所）である。販売額は77億円から71億円となる。工業は平成13年従業者数は615人（27事業所）製品出荷額88億

町長 円が、平成22年度は552人（22事業所）68億円に減少している。

問 今後の振興施策は。上田・佐久地域定住自立圏の広域連携で人材育成・情報を共有し、産・学・官での産業振興支援策の充実強化と立科ブランド構築による6次産業化の確立を目指す。

町長 「小諸・北佐久勤労者互助会」の取り組み状況は。勤務する勤労者と事業主の福利厚生を増進が目的である。4市町で157事業所（1149人）の加入。立科町は、平成24年度13事業所（64人）である。加入促進で増加傾向にある。

問 若者の町内定住・町外移住者を募る策、「働く職場の確保」「企業の誘致」が必要だが、主要な交通網から離れ、労働力確保も困難、企業立地・誘致には不利な状況にある。

工業系の誘致体制は他の市町と比べ貧弱である。農業を絡めた企業誘致をしてきたが、農地集約の条件が整わず誘致に至っていない。今後は健康・医療、環境エネ分野等への展開も有望かと考える。

企業誘致による町の活性化は



森本信明

問 町民の多くが商工業に携わり、家計を支えている。町民の多くが商工業に携わり、家計を支えている。町民の多くが商工業に携わり、家計を支えている。

町長 「商工」の課名がなくなったのは。え、町財政の支えである。「商工業の振興による町の活性化」は町の繁栄、発展に欠くことのできな大きなテーマである。

町長 「商工」の課名は、平成19年7月になくなった。業務が役場内と観光センターに分断され業務上支障、町づく推進課に組織変更した。

町長 目的達成事業の実績と成果は。実績は、資金融資の利率の引き下げ（2.7%を2.5%）に、利子補給（1%）。商工会への補助金（800万余円）退職掛金補助

町長 地場産業開発事業の実績と成果は。商工業者が、生産した伝統的技術・技法・資源活用した地場産品は、シャワー入浴装置開発・御泉水の湧水商品化・米販売



商工業振興・商工会「多来福祭り」

商工業振興による町の活性化は

町長 平成10年4月開館以来15年目を迎え、昨年は累計300万人の入館者数となる。ここ数年、毎年21万人前後と横ばい状態。14年度より支出が収入を上回る状況が続いている。

町長 町民優待券と商工会員である町内企業に勤務する町外者にも特別優待券交付。期間券料金改定、イベントではカラオケ大会・湯祭り、健康教室等開催、ポイントカード制導入、カラオケ料金を100円に、権現亭のサラダバー・冷しゃぶセット・蓼科牛丼セットなど、集客とサービス向上に努めた結果入館者アップに繋がっている。

町長 接客対応クレームについては。その都度指導を実施。館内が寒い寒い、お湯が熱い、ぬるいに関しては、個人差もあり丁寧な説明をしながら対応している。

町長 将来、振興公社に移管の考えは。指定管理をしてサービス改善を考えると将来は、そうなるのかな



権現の湯

権現の湯の運営状況、今後の運営方針は



土屋春江

問 毎年、一般会計から充当しているが運営状況は。平成10年4月開館以来15年目を迎え、昨年は累計300万人の入館者数となる。ここ数年、毎年21万人前後と横ばい状態。14年度より支出が収入を上回る状況が続いている。

町長 町民優待券と商工会員である町内企業に勤務する町外者にも特別優待券交付。期間券料金改定、イベントではカラオケ大会・湯祭り、健康教室等開催、ポイントカード制導入、カラオケ料金を100円に、権現亭のサラダバー・冷しゃぶセット・蓼科牛丼セットなど、集客とサービス向上に努めた結果入館者アップに繋がっている。

町長 高熱費は、暖房・給湯・源泉と浴槽昇温にかかる熱源設備を従来の灯油ボイラー方式から井戸水・温泉の廃湯を熱源とした水冷式高効率のヒートポンプシステムに変えた。800万円・900万円のエコの成果が出ていると評価する。

町長 今後の経営方針は。毎年25万人の入館者がいけば収支がとれる。近隣の施設の価格・サービスを見定めて将来はやはり料金なのかと考えるが、もう少し改善提案の議論をしたい。

と思う。

問 国道バイパスもでき、交通便は改善されたが、まだ危険箇所などがあり、将来の線形整備は、また主要道路整備の必要性は。

町長 道路は地域経済の発展を支える。当町は南北に細長く南北に主要地方道また県道があり、東西に国道が走り、交通量の増加に伴い危険箇所などを重点に整備する。



小宮山正儀

主要道路整備構想と実施計画は

問 当町からのアクセスは。

町長 国道142号線は整備済み、県道牛鹿望月線は、整備促進を図っている。

問 県道芦田大屋停線の期成同盟会は。

建設課長 この路線にはないが、他の路線にはある。

問 高速道路並びに高規格道路へのアクセスに対し基本構想は。

町長 今後の社会経済の状況や財政状況を勘案しつつ、安全安心な交通網の整備を進めていく、特に人口増を目指し、この町を活性化させるには、道路整備は積極的に推進していく。

問 道路整備構想図と実施計画図は。

町長 出来上がれば公表。

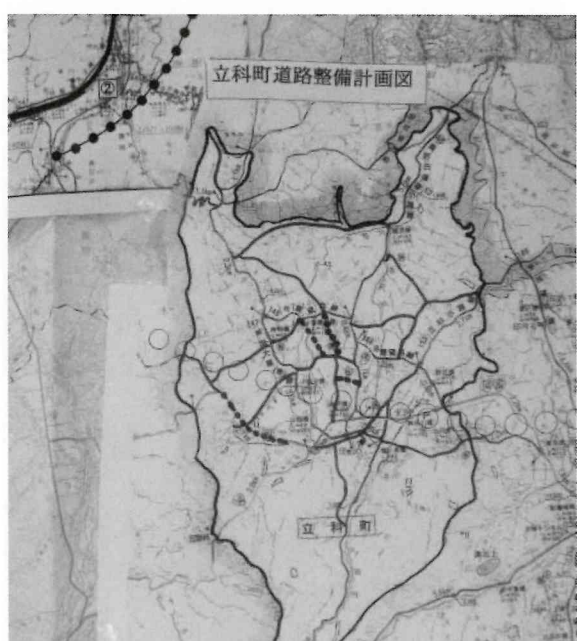
問 主要地方道又県道の制限速度は道路設計

問 歩道の改良幅は。

建設課長 1mそこそこの箇所もあるが高齢者、障害者、車椅子、老人車など考慮し2m超も検討。

問 場所によってバイパス計画は。

建設課長 道路の機能は大事、費用対効果等勘案し最良策で検討する。



結 主要道路整備の長期構想は町の発展が見られることを想定すると、町民目線でも町づくりをする事が絶対必要。インフラストラクチャーの整備は必要課題であり、長期計画を持ち、国県へ実現に向け、早急の働きかけを強く望む。

問 町の除雪委託の範囲の見直しは。

建設課長 毎年行なう建設業者との打ち合わせの中で路線確認をしていく。

問 自力による排尿が困難となり、カテーテルによって自尿させる器具への補助を望むが。

町長 医療行為、その他の医療用品や衛生材料との関連もあり今回の場合は対象外。

問 生活保護受給者から、受給前の国保税の滞納分を徴収する事は、今後の生活に不安、脅威を与えるやり方で不適切でないか。

総務課長 税の公平の原則に基づいて本人の状況に応じて納付していただく。

問 中学の生徒会費は、1000円、PTA会費小学校一戸当り年額2500円、中学校一戸当り2700円は準要保護家庭の就学援助として支給するべきと思うが。

町長 町の厳しい経済財政状況を考えると拡大は難しい。

問 行政は自らの手で町民の大変な生活実態を握んで予算編成をして欲しい。

町長 長期振興計画に基づいてその見直しをつなぎながら、毎年の予算編成を行なっている。

結 最後に国保をはじめとする負担増と長びく経済悪化の中で住民の生活実態に即した施策充実に向けて町は心をくだいて欲しい。



山浦妙子

住民生活に寄り添った施策充実予算を

問 町長公約「不妊治療の助成制度」早期実現は。

町長 平成25年度事業に安心して妊娠できる環境を整備し、少子化対策の充実を図るための予算を計上。一年以上立科町

に住所を有する夫婦。町税の滞納がない者。助成率は7割。一組当り年30万円を限度とし、最長5年間。県の助成事業も同時受給でき、この交付額を町の対象経費から除くもの。



問 大雪は家屋や人的被害に至ってなくても道路の寸断等で、財政的、時間的負担が生じる。今年の様な降雪時には町の特別支援を望みたい。

町長 大雪で孤立し、生活に支障が出てしまうような道路については区長、部落長から要請があれば対応する。軽度生活

支援事業の中の除雪もある。10cm以上の降雪で近所の支援もなく、自宅から公道まで、人が通れる幅の除雪に対してシルバーク人財センターへの委託となり、利用料は1時間当りの経費の内、150円のみ負担を頂く。量や内容に負担を感じる事が多く積極的に受ける人

国保や介護保険の保険給付削減対策は



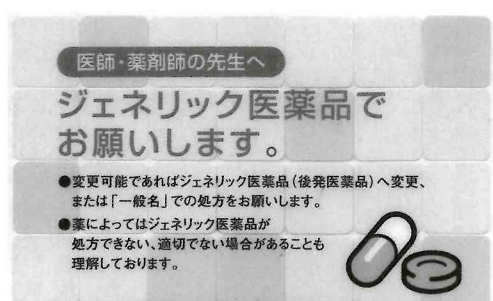
小池美佐江

問 日本の国民皆保険制度は世界に誇ると言われているが高度医療、高齢化、無所得者、軽減所得者が多いため逼迫している。

町長 今年度で国民健康保険条例改正が出され15%の値上げというが、年に1万円の値上げとは急激すぎないか。

問 国では国保の膨張対策の一助としてジェネリック医薬品を推進しているが当町のジェネリックの浸透はどうか。まだまだ浸透は薄く掘り起

町長 毎年3%の医療費が伸び続けている、平



こせると思うが。いろいろな面から推進を図っていく。

問 保健予防と介護予防の提案、加齢による手足や腰の動きが鈍くなると、閉じこもりがちになり老化が加速される町としてはどんな対応か。

町長 身近な場所から始めるウォーキング教室。地域に出向いて行う講座、中央公民館を利用した講座等、予防策に取り組んでいる。

問 転ばぬ前の杖、例えば日赤病院のリハビリ室への教室はどうか。

町長 検討する。

結 人間ドック受診者負担の軽減は、他町村との比較ではなく、わが町の医療費削減や健康対策にどれだけ力を入れていくかが問題。わが町にリハビリ教室やプールというのではなく、近隣の施設を利用させてもらうのも一案と思うが、外への扉を開けようというのには残念。

加速される給付費に対応するには従来どおりの対策だけで間に合うのか、さらなる対策の必要性を感じるが、緊迫感を感じられない。

問 白樺高原再生は女神湖地域の活性化無くして実現できない。次世代に、「観光地発展の大きな夢」を抱かせるよう、女神湖地域再生のためのランドデザインの策定を提案するが。

町長 一月に、索道事業経営改善検討委員会を立ち上げ、町の経営改善計画に対して諮問。索道事業のみならず、白樺高



橋本 昭

白樺高原再生に二つの核の提案

問 原の観光等への幅広い意見が出されている。答申を受け、会議にて出された意見等を振興策に反映させたい。本提案は、その際に参考にする。

二つの提案は次世代に夢を抱かせる提案とのことであるが、観光地白樺高原全体を、将来どのような方向にしていきたいのか、地域の皆様の意欲や盛り上がり期待しながら、町民の議論を待ちたい。

町長 グランドデザインの核の中核的な施設として、女神湖通り周辺に、地域顧客満足度の向上、滞在

町長 多目的運動場内の温泉利用であるが、「権現の湯」の収支が良くない中で、利用される範囲は異なるが、町営で2か所の経営は、今考えられない。

問 一般職への外部からの任期付き職員導入は、職員の士気低下につながることも考えられるが、観光は専門性を有する職務、じっくりと取り組むために考えられるのでは。

町長 職員は定期的なローテーションのため、

問 観光課は観光事業者の状況、実情を把握し、政策立案等の役割があるのでは。

町長 観光協会の役割を担うが、観光協会が地域を取りまとめ、協力して行きたい。

問 県の観光基本計画で、県と連携した、山岳高原観光地づくり構想の策定と推進の取り組みを期待されているが、対応は。

町長 県のいわゆる通りに、県が目と地域の目は



女神湖商店街通り

問 観光地への企業誘致は。

違う、長期振興計画・事業計画で対応。

町長 観光地への企業誘致は、大いに歓迎する。いろんな角度から対応することができると考える。

町長 「地域間連携」観光エリアと農村・商業エリアの連続性「地域間連携」各分野の公を交えた「分野間連携」推進。「中小企業振興資金融資事業」を通じ経済的、社会的地位の向上を図っている。

問 徳花苑福祉法人化は介護サービスの充実、待機者緩和に期待。公的運営、民間運営の利用者不安は家族と共に丁寧な説明が必要。

町長 「社会福祉法人ハートフルケアたてしな」に事業財産移管、4月より新体制。家族会、お知らせ通知、広報誌コスモス等で周知、佐久広域連合と「事業推進連絡会議」設置。連携・共同で推進。



問 農地、山林、水、歴史、文化等取り巻く自然環境、歴史的遺産等「立科の環境」継承は次世代への義務。特に夢科の水保護、地下水保護施策は重要。有効利用で町民益とは何か。

町長 先人が築いた水の恩恵は今日立科町発展の原点。外国資本の社会

問 問題も表面化、水道水源保護条例、地下水保全条例を制定、意識の高まりを認識。山林保護、涵養水源保護整備継続、酒類ワイン、葡萄試験栽培中だが水に大きな魅力を持つ。水田、果樹地帯、施設園芸等の活用は町民に繋がる。

町長 人口減少、高齢化、地域色、事業の魅力が薄れ危機感を持つ。農・商・工・観・公の連携創造が必要。都市自治体保養施設の農村、都市との

問 当町産業の柱、観光、農業、商業は厳しい状況。「地域間交流」「地域間交流」「分野間交流」の内容は。

町長 人口減少、高齢化、地域色、事業の魅力が薄れ危機感を持つ。農・商・工・観・公の連携創造が必要。都市自治体保養施設の農村、都市との

問 「地域間連携」観光エリアと農村・商業エリアの連続性「地域間連携」各分野の公を交えた「分野間連携」推進。「中小企業振興資金融資事業」を通じ経済的、社会的地位の向上を図っている。

問 徳花苑福祉法人化は介護サービスの充実、待機者緩和に期待。公的運営、民間運営の利用者不安は家族と共に丁寧な説明が必要。

町長 「社会福祉法人ハートフルケアたてしな」に事業財産移管、4月より新体制。家族会、お知らせ通知、広報誌コスモス等で周知、佐久広域連合と「事業推進連絡会議」設置。連携・共同で推進。

町長 運営、民間運営の利用者不安は家族と共に丁寧な説明が必要。

町長 「社会福祉法人ハートフルケアたてしな」に事業財産移管、4月より新体制。家族会、お知らせ通知、広報誌コスモス等で周知、佐久広域連合と「事業推進連絡会議」設置。連携・共同で推進。

問 「立科の子育て支援」の内容は。



西藤 努

平成25年度 予算編成重点施策について

町長 保育所運営と児童館運営が中心の施策。延長保育、一時保育、休日保育を実施。児童館は就労形態に対応し閉館時間を7時に延長。教育相談員、教育委員会内に子育て相談員を配置。新保

問 「立科教育」は地域社会の協力、町民理解が不可欠。実施体制と内容は。

町長 「生きる力」を培うことを目標。①幼児教育の充実。②学力向上。③豊かな人間性の育成。

④特別支援教育の推進が柱。多くの事業計画を掲げたが本年度は、学力向上を目指す「小中高連携学力向上事業」と「幼児教育」を推進。

教育長 将来の学力伸長に影響ある算数、数学の基礎基本の定着、3校間授業交流推進を図る、伸ばす授業実践研究推進。

3校教育委員会事務局組織、専門人材確保を進める。「幼児教育」は「たてしな保育園構想」下に「保育計画」策定。自然体験、文字、数の読み書き学習等、小学校の学習に繋げる。英語学習があることから、親しむ計画推進。



問 期日前投票を簡単にするために、投票所入場券に宣誓書を印刷、事前に記入できるよう提案する。

総務課長 誠に効率的なアイデアと思う。検討し対応する。

問 投票所内に本人がメモを持ち込むことは。総務課長 忘れないためのメモの持ち込みは、公



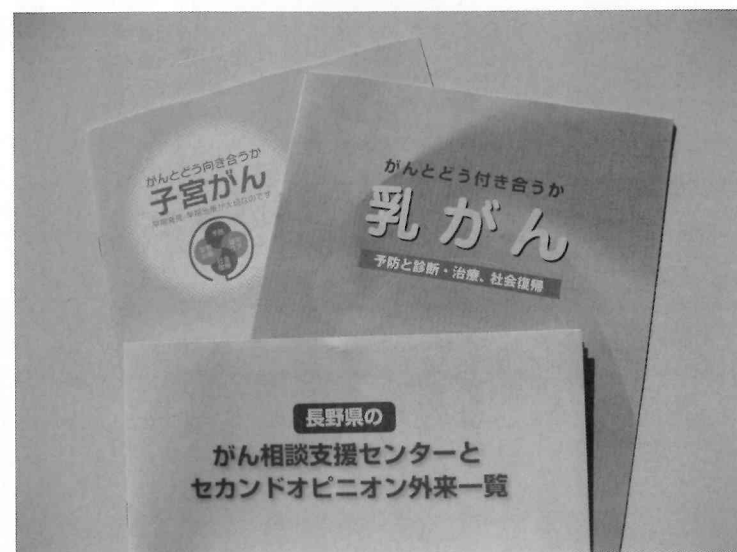
榎本真弓

期日前投票の簡素化と環境整備を

問 選法上は問題ない。ただし、他の人に見せたり話をすることは問題となる。あくまでも常識の範囲で行うようにしていただきたい。

問 町内の投票所の数とバリアフリーの整備は。

総務課長 投票所は22箇所である。バリアフリーは、12の投票所で整備している。簡易スロープなど必要に応じて対応している。その他10箇所は、段差が小さく少ないので必要ないが、介添えが必要ならそのつど対応する。



問 がんに対する正しい知識を子供の頃から身につけるために、「がん教育」の実施を提案する。子宮頸がん予防ワクチンとの兼ね合いもある。子供のがん教育と共に、教師も合わせてこれからのがん教育の普及になると思うが。

町長 がん予防の正しい知識を持つことは、子供のころからの教育として重要性が指摘されている。がん教育は自己の予防・食育につながる、保護者への波及効果も期待できる。平成25年度より子宮頸がん予防は、任意

から定期接種となるので、小・中学校で連携していく。町民の健康・がん予防・生活習慣予防を、教育委員会や関連機関と連携を取りながら、効果的な指導方法を取り込んでいく。

問 がん教育は、生きる力を考える「立科教育」独自の授業となると思うが。

町長 がん予防に関しては、生活習慣予防の一環としてやっている。カリキュラムで取り入れるかどうかは、教育現場でしっかり検討する。

がん対策の一つ「がん教育」の推進を

つれづれに

橋詰 幸子

(茂田井)

毎年この季節になると温かい日々と寒い日が入れ替わりながら次第に温かさが増して、心も体も軽くなつていくような気がします。今年はずれもつかないアツプダウンで地球がどうかしてしまつたのかと心配して

います。

さて、元気に暮らすためにはということでは昨今はいろいろな情報が氾濫していますが、すぐに始められることといふことから、このところ週に二、三回近隣を歩いてみます。三十余年もこの地に住んでいるにもかかわらず、知らない道が多いのに驚いています。そして山際の細く狭い道なのにほとんどがコンクリート舗

装されていて、どこの道でも軽自動車一台ぐらいなら入って行けるようになってくるのです。こんなに隅々まで行き届いていて、さすがに日本だと感心しきりです。

鼻の先が凍りつくような寒い冬の空気の中、春の穏やかな風の中、どこの道を歩いていても発見があり感動があります。

遠くは八ヶ岳連峰から蓼科山、湯の丸・烏帽子岳、高峰の連なる北アルプス等々、

雄大な景色に囲まれて歩いた後は気持ちが爽かになり、家に帰って来るころには手足の指の先がポツカポツカになって、生きていることを改めて実感します。

立科町のこの環境の中で日々生活していることを五感で受けとめるとき、思わず幸せな気持ちになります。きれいな水と空気、当たりまえにある我がふる里を嬉しく感じられる日々です。

♪山は青きふる里、水は清きふる里

晩年始めの徒然に

小宮山一夫

(外倉)

一昨年三月の大地震や、夏の台風等の大被害は、自然の中に感じられない人間の小ささを感じます。幸い当地方の被害は少なく、この町に生まれ育った事を、親や御先祖様に、常々感謝しているこの頃です。

昨年三月、牛鹿区長を退任した私は、公の社会奉仕

を全て終わり、開放感と満足感で、自分なりに感嘆符をつけました。

七十才を過ぎ、自分の人生を振り返る機会の多くなった今、専業農家として輝きがあった時代には感謝し、不幸の続いた時は、それを乗り越え様と努力もした半生に、自分(妻も含め)本当の意味での晩年の始まりを作りたいと思っている今日この頃です。

今は、縮小した農業にも未だ面白さを感じて精を出

したり、六十四才で始めたスキーは健康の為、夏のマレットゴルフや登山を楽しんだり、多勢の人々との巡り会いの中で、大きな声で語り合い高笑いをする、そんなコミュニケーションを通じて生き甲斐を感じられる楽しさが、たまらなく面白いと思う。

毎年元旦に、地域の観音堂に短歌を奉納する事を、恒例としています。

「丸き世に、光陰満らんこの七十二才で

無垢の人生を求め欲さん」



今年も実り豊かな一年であつて欲しいと願い、神棚の前にも貼り、晩年始めの思いを徒然に思つ日々です。

編集後記

この冬は記録的な大雪と寒さにみまわれました。

このごろは一転して、草木に勢いを感じられる、季節となりました。

四月に入り様々な形で、希望を持ってスタートされたことと思います。

町では特徴のある、インフラ整備が進められている中で、木材を取り入れた統合保育園が新築されました。

園舎では木の香りのただよウ中で、子供たちがおおきな声で元気に遊び学んでおります。

私たちも新たな気持ちで頑張りますので、よろしくお願い申し上げます

小宮山正儀

○今後とも「議会だより」を
ご愛読下さい。

議会だより編集委員会

森本 信明 榎本 真弓

小池美佐江 山浦 妙子

田中 三江 小宮山正儀